

第3次対がん総合戦略研究事業の成果について

厚生労働科学研究の研究成果を広く国民に情報公開するために、研究報告書をデータベース化しており、インターネット上で閲覧、検索等を行うことが可能。

研究目的:
鶴齧鳥のがんにおいてジュネティック・エピジェネティックな遺伝子異常を網羅的に解析し、がんの遺伝子型と表現型の相関 (genotype-phenotype correlation) を明らかにして、ヒトの諸族群における多形発現がん過程のシナリオの全貌を解明する。

研究方法:
独自に開発した高密度アレイを用い、該族群のがんで比較ゲノムハイブリダイゼーション解析を行った。Telomerase欠損マウスを作成し解析した。TCF-4の結合部位のDNA変異等の発癌過程を明確化した。プロトオーム解析技術の革新を行い、シグナル化形質 (GMP) の予後予測力を検証した。癌がん過程においてDNAメチル化制御の倫理指針を遵守し、所属組織の倫理委員会の承認を得た。米国腫瘍動物資源協会の動物倫理委員会の承認を得た。

解説における多形発現がん過程が進展していることを示した。胃がん、肝がん、肺がんマウスが、肺臓、肺葉底を平滑に自然発生することを見出した。TCF-4の結合蛋白質とした。O蛋白共役型受容体 (p49) の発現がニッケル・ヒドロキド経路の下流で制御された。胃がん・大腸がん・肺癌の癌がん過程においても、日本人例と同様に CpGアイランドメチル化形質 (GMP) 強い予後予測力を持つされた非腫瘍性肺細胞は、組織学的に特記すべき所見を示さなくても既に前がん過程にん状態からより悪性度の高いがんを生じる可能性がある。

研究データ一覧 担当課情報 研究事業変遷表

ヘルプ

厚生労働科学研究成果データベース - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(U) お気に入り(A) ツール(W) ヘルプ(H)

戻る 前へ 検索 検索 お気に入り メール ブックマーク リンク サポート アドレス(D) http://mhlw-grants.niph.go.jp/

厚生労働科学研究成果データベース

MHLW GRANTS SYSTEM

厚生労働科学研究成果データベース

→ 閲覧システム

このボタンをクリックしてください。

研究分野一覧

担当課情報

研究事業変遷表

初めての方へ

- 本データベースについて
- 利用規約について
- ご利用環境について

お知らせ

2008.11.17
11月22日(土) 6:30 ~ 17:30システムメンテナンスのためご利用になれません。あらかじめご了承下さい。

お問合せ先

※お問合せ時間: 9:30~17:00(平日)
国立保健医療科学院 研究情報センター
図書館サービス室
担当: 厚労省 GRANTS SYSTEM 係
TEL : 042-153-6211

登録件数

年度	機関版	報告者本数
平成19(2007)年度	1520件	231件
平成18(2006)年度	1779件	150件
平成17(2005)年度	1657件	1679件
平成16(2004)年度	1826件	1835件
平成15(2003)年度	617件	1266件
平成14(2002)年度	833件	1276件

厚生労働科学研究成果データベース

<http://mhlw-grants.niph.go.jp/>